

住まいの飾り職人“アトムリビンテック株式会社”の広報誌 [アトムニュース]

ATOMNEWS

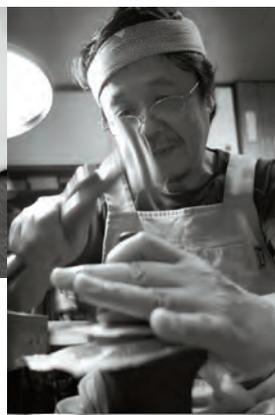
2018 SUMMER

200



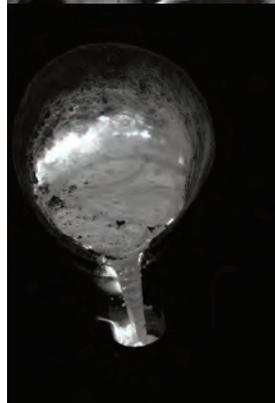
1980年創刊から38年
200号を迎えました





KANAGU

kanagu-store.com



- 3 アテナの道具箱 指物職人 益田 大祐さん
- 6 石の神さま仏さま いつの時代も同じ場所を守る
- 7 住まいに役立つ仲間たち お風呂は、からだがよろこぶ癒やしの空間
- 9 What is ATOM? 2018 春の新作発表会レポート
- 11 古今東西たてものがたり 東京都台東区 桜なべ中江
- 15 Vegetable Atelier ロマネスコ
- 16 SLOWでいこう カフェ me, too
- 17 200号巻末特集 おかげさまで200号!
心からありがとうございます
- 22 オフタイム

今号の表紙

イラスト 浮世絵猫



江戸時代の猫は貴重な動物で、浮世絵師の歌川国芳は沢山の猫を飼っていたようで、猫の絵が多い。現在でも猫は都会生活の癒やしとなり、家族の一員として人気が高く、猫ブームとなっている。そこで今号の表紙は、室内で扉などに取り付けて動物だけが通れる「ペットくぐ〜」のアイデア商品紹介と浮世絵猫とした。



瀬谷 昌男 [Masao Seya]

東京都渋谷区原宿生まれ。浮世絵風のユニークで癒やし系の作品を生み出しているイラストレーター

読者プレゼント Present



● 指物 名刺入れ

ひとことと言えば、木でできた四角い名刺入れ。…なのですが、ひとことでは言い表せない、粋で、上品で、四角だけどただの四角じゃない、指物職人 益田大祐さんの世界観が存分に楽しめる名刺入れです。金釘を使わずにホゾ組みされた匠の技が見た目からも手触りからも感じられ、全体から凛としたオーラを放っています。ブラックウォルナット、メイプル、ナラの3種類のなかから、今回は益田さんがオススメのふたつをセレクトしてくれました。

指物といえばアトムリビンテックのルーツを語るときに、はずせない伝統工芸品。アトムニュースの200号にふさわしい逸品です。

【サイズ】 69×100×H17mm

【材質】 ブラックウォルナット(象嵌部分:メイプル) メイプル(象嵌部分:ブラックウォルナット)

【販売価格】 22,000円+消費税

巻末のハガキ・FAXまたはホームページのアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で2名様にプレゼントいたします。

締め切り 2018年7月31日(火)

● 当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます

ギャラリーショップ KANAGU

職人・金属・手しごとをキーワードに、こだわりのアイテムを取り揃えています。どうぞお気軽にお立ち寄りください。





アテナの道具箱
ATHENA'S TOOL BOX
VOL. VI



— 伝統と革新性 —

鉋掛かんがなけの軽やかな音が作業場に響いた。製作中の茶箱の蓋に平鉋を掛け、さらにもう一度。削り終えた蓋が平らになっているか、「あて台」と呼ぶ作業台に置き、水平を確かめる。削り屑は紙より薄く、わずかに数ミクロン。まさに職人の技だ。作業は鑿のみや鋸のこぎり、鋸のほかに二百挺ちよう以上もある鉋を使い分ける。

茶箱の蓋と底の部分にはピンク色の木が組み込まれ、独特のアクセントに。「ルイ十六世が好んだというチュエーリツプウッドで、ヴェルサイユ宮殿の家具にも使われています」

茶箱の形や寸法は伝統を受け継ぐものだが、どの素材を選んで組み合わせるかは作り手に委ねられる。このパーツはデザイン性と同時に桐材の茶箱の強度を補う工夫でもある。「伝統は守りつつ、ちょっとだけおオシャレ」。それが指物職人としての益田さんの信条だ。

— 江戸指物の粋 —

「指物」の語源については諸説がある。「物差し」を使って正確に細工するからとも、ホゾや継ぎ手によって木と木を「差し込んで作る」からともいわれる。金釘を一本も使わず、板や棒を組み合わせて作られた家具・建具・調度品などの総称である。



木の命



指物職人 益田 大祐 DAISUKE MASUDA

1975年、東京都練馬区生まれ。育英工業高等専門学校工業デザイン学科卒。家具製造会社に就職するが、江戸指物と出会い、退社して「江戸指物 渡邊」に弟子入り。2005年にさいたま市で独立。2009年に墨田区に移転し、墨田区伝統工芸保存会に入会。歌舞伎役者の楽屋鏡台、茶道具や普段使いの小物など幅広く製作している。



その歴史は古く平安時代の宮廷文化までさかのぼる。大きく分けて「京指物」と「江戸指物」のふたつの流れがあり、京都の指物は朝廷や公家、茶道用のものが発達し、雅や侘びの世界を重視する。「それに対して江戸の指物は、武家や商人をはじめ歌舞伎役者の道具入れなどに使われるようになって、シンプルで粋という美意識が特徴です」

— 最初の道具箱 —

益田さんと指物との出会いは、都内で開催されていた江戸指物の実演展示会だった。

はじめて指物職人の見事な手わざを目の当たりにし、「こんな素晴らしい技術があるんだ」と感動した。「どうやって作るのか」という興味が湧いて、この技術を身につけたいと思った。一目惚れだった。

もともとはデザイナー志望。家具製造会社に勤めていたが、すぐに弟子入りを志願。会社を辞め、二十二歳のときに「江戸指物 渡邊」で修業生活に入った。親方のもとで掃除や道具類の手入れから始め、技術訓練校の夜学に通って木工の基礎を学んだ。



修業中に初めて作ったのは「キハダ材」を用いた道具箱。最初の作品だけに不満もあるが、愛着があつていまも傍に置いて使いつづけている。

独立を決意したのは、三十歳が目前に迫ったとき。修業を始めて、すでに七年が過ぎていた。

「私が弟子入りした当時、同じ業界に何人かの弟子がいましたが、ほとんど少なくなつていきました」。戦後の丁稚奉公の時代以降、世襲ではなく外部から入ってきた弟子が独立するのは稀なことだった。

— 木と職人の技 —

現在、益田さんは墨田区でただひとりの指物職人だ。伝統工芸に取り組む一方、新しい指物作りにも挑戦している。

そのひとつが葛飾北斎の浮世絵にインスパイアされた作品。「神奈川冲浪裏」の

巨大な波をモチーフにしたインテリアランプだ。

「波の形はタモ材を五分割し、ホゾを切つて組み立てています。苦勞したのは富士山の形のランプシェード部分。一瞬でも気を抜けない繊細な作業である。

「ヒバの角材を木取りして円錐状に加工してから、鑿や彫刻刀で薄く削り上げました」

独自性と個性が光る作品

品「波 a k a r i」の

誕生である。木その

ものが持つ素材の

魅力と、職人の技

が融合した指物の

美しさ。そこには

江戸時代から守られて

きた伝統技術と、

想像力豊かな遊び心が

ともに活かされている。

「伝統的なものから現代の生

活スタイルに合わせたものなど、使う

人に寄り添うものづくりを目指したい」

益田さんの匠の技によって指物に命が吹きこまれ、人々の暮らしの中で「新たな命」が息づいていく。



東京都豊島区 雑司ヶ谷鬼子母神堂 地蔵菩薩

いつの時代も同じ場所を守る

お寺や神社の境内の片隅や道すがらにひっそりと立つ、石の神様・仏様。時によっては、立派なお堂の中に祀られた国宝の仏像よりも力強く、何かを語りかけてくれます。



昔々、旧石器時代から、このあたりには

人が暮らしておりました。

戦国時代には街道もあり、たくさんの旅人が

行き交っていたようです。

そして江戸時代、鬼子母神にお参りする人が

たくさんやってきて、

とてもにぎやかな街になりました。

僕はそのころから、

ここに立って、子供たちを見守ってきたんです。

今、この街は少し静かになって、

「東京のレトロタウン」なんて呼ばれています。

もしかして、自分もその「レトロ」の一部なのかな、

なんて考えながら、

僕はここで、みんなの自転車を守る仕事をしています。

江戸時代と同じセミの音が、

今年の夏も聞こえてきましたよ。

雑司ヶ谷鬼子母神堂 地蔵菩薩 (東京都豊島区)

鬼子母神は、安産と子育ての神様として、この地で信仰されてきました。このお地蔵さんも、相当古くから、鬼子母神さんの境内の裏側にあっただと思われま。近年、ここ雑司ヶ谷は、「昭和の香りのする街」として人気ですが、昭和なんて、このお地蔵さんしてみたら、つい昨日のことなんだろうな。

● 東京メトロ副都心線「雑司ヶ谷駅」下車、徒歩5分



文・写真 吉田さらさ

寺と神社の旅研究家。日本各地に取材し、石の神様、仏様の像の写真を撮って「お言葉」を考えるのがライフワーク。『明日がちょっと幸せになる お地蔵さまのことば』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)、『石仏・石の神を旅する』、『長崎の教会』(いずれもJTBパブリッシング)など、著書多数

古代ローマのテルマエ風呂

日本人が現在のようなお風呂に入るようになったのは、江戸時代からです。海外では、古代ローマ人が古くからお風呂を楽しんでいましたが、ローマ帝国がキリスト教を国教とした後では、人前で肌を出す行為は風紀を乱すというので、湯船に浸かることは徐々にすたれてゆきました。



住まいに役立つ
仲間たち

BATHROOM

お風呂は、からだだがよろこぶ癒やしの空間

お風呂は、からだも心もリフレッシュさせてくれる、不思議な空間。日本人に「もし休みが取れたら、どこに行きたいか？」と尋ねると、答えのナンバーワンは、温泉かもしれませんね。自宅でも、いち日の終わりにには必ずお風呂に入りからだを休めます。それと同時に、お風呂はいち日をリセットするのにとっても大切な場所なのかもしれません。

世界では、日本人ほどお風呂に入っていない

1日の疲れを癒やすべく「あつ〜〜」と言いながら湯船に入る民族は他にはありません。海外の多くの人たちはシャワーで汗や汚れを洗い流すだけです。

お風呂と仏教

日本でお風呂が普及した理由は宗教の影響でした。仏教では水で身体を清める沐浴が行われていました。ですから温かい水に浸る銭湯文化が庶民に受け入れられたのも不思議ではありません。



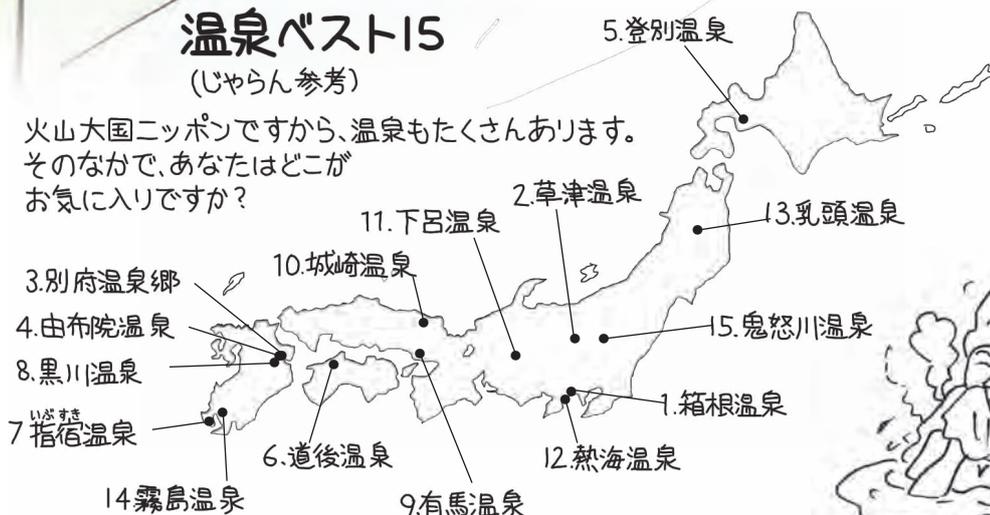
温泉大国ニッポン!

火山列島の日本には3,000以上の温泉がわき出しています。地震や火山の災害も多発する国ですが、それゆえに受ける恩恵もあるのです。

温泉ベスト15

(じゃらん参考)

火山大国ニッポンですから、温泉もたくさんあります。そのなかで、あなたはどこがお気に入りですか？



塩浦 信太郎

信太工房主宰／カラクリ作家。博物館や科学館へのカラクリの貸し出し、ホテルなどからのオーダーによる作品制作、ほかにデパート各店での展示販売などを行っている

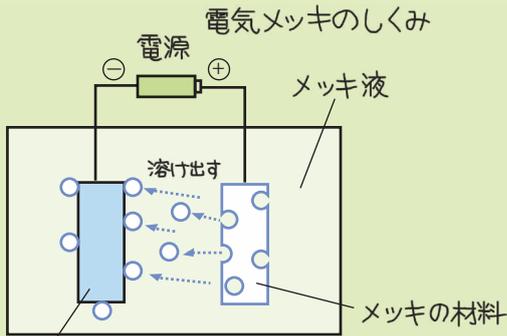


素材を知る

金属メッキ

メッキは素材を守る

メッキとは、外来語ではなく日本の言葉です。元来は塗金と呼ばれていました。その後、金が水銀に溶けて見えなくなることから減金、さらに減金・鍍金(めっき)と呼ばれるようになりました。ではなぜメッキを施すのでしょうか? その理由は3つあります。ひとつは素材をサビ(腐食)から保護する目的。ふたつめは装飾メッキ。たとえば車のエンブレムなどのように、見た目を美しく仕上げる目的。3つめが機能メッキ。電子部品などに利用され、メッキを施すことで電氣的、光的、熱的、工学的、機械的、物理的に機能を高めることができます。今やメッキが無ければパソコンも動きません。



メッキされる素材(金属)

メッキの歴史は古く、紀元前1500年、メソポタミア文明では腐食しやすい鉄の装飾品に溶かしやすい錫を塗布することでメッキとしました。日本では、奈良時代に東大寺の大仏に水銀と金粉を混ぜた合金(アマルガム)を全体に塗り、その後、松明などで表面を加熱すると水銀だけが蒸発し、表面に金の膜だけが残るアマルガム法でメッキを施していたのです。1800年にはイタリアで電池が発明されて、それにより電気メッキが可能となりました。日本初の電気メッキは、1855年に薩摩藩の島津齊彬がダニエル電池を使って甲冑品に金メッキや銀メッキを施したものとされています。

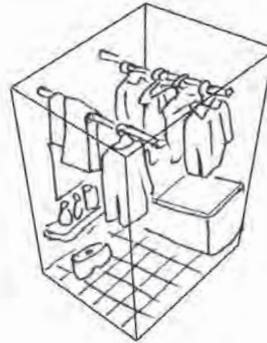
温泉文化は裸の付き合い

海外の人たちが日本の温泉にはじめて入るときにみんなが裸で入ることに驚きますが、慣れてくるとその良さがわかってきて、次からは裸に抵抗がなくなってくるようです。



ユニットバスの進化。まるで乾燥機

忙しいサラリーマンたちのなかではユニットバスをそのまま乾燥機代わりに使用する人が増えているようです。



3つの役割

体がきれいになる
疲れが取れる
リラックスできる



記録に残る三古湯

720年に完成した『日本書紀』には兵庫の有馬温泉、和歌山の白浜温泉、そして愛媛の道後温泉について書かれてあり、「日本三古湯」と呼ばれています

やはりお風呂は、お猿さんも人間も気持ちいいんですね!!

動物をみていると、からだに気持ちのよい場所をよく知っています。人間も、気持ちがいいと感じることは、健康にも良いと思います。やはりお風呂は楽しく入りましょう。

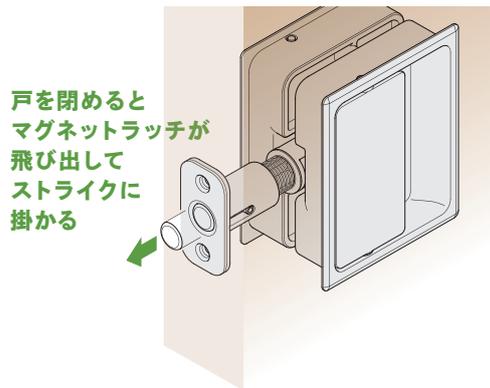


NEW

フラットハンドル

マグネットラッチ採用!
出っ張らないすっきりデザインの
屋内用ドアハンドル

ハンドルが戸とフラットになるので、レバーハンドルのような出っ張りがなく、収納時も邪魔にならずコンパクト。戸を閉めるとマグネットラッチが飛び出し、ストライクに掛かります。ストライクは内側のネジを緩めるだけで、前後それぞれ2mmずつ調整が可能。黒とWB、クロームの3色があり、ドアの色合いに合わせて選べます。

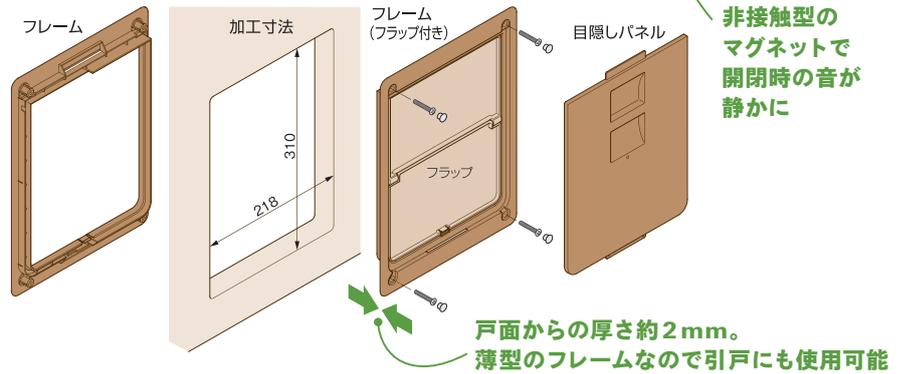


NEW

ペットくぐ〜る2

開閉時の音が静かになった!
フレーム厚が薄いのので、引戸にも使用できます

今回の新商品は、マグネット部分が非接触型となり、開閉時の音が静かであることが大きな特長です。ふたつに折れるフラップが、押し開ける際の衝撃を吸収し、尻尾の挟まり防止にもなります。またフレームの肉厚が薄いため、開き戸だけではなく引戸にも使用可能。アイボリー、アンバー、ダークブラウン、ブラウンの4色があります。

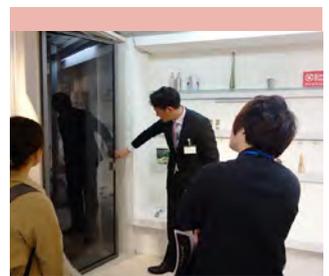


2018 春の新作発表会レポート

去る4月、大阪と東京でアトムリビンテック「2018 春の新作発表会」を開催いたしました。東京会場では金物の展示エリアを拡張し、多彩で幅広い商品を展示。移動間仕切り金具、引戸、折戸金具をはじめ、品揃え豊富なソフトクローズ引戸や連動引戸・折戸金具、さらに空間を有効に活用できる移動間仕切り金具などの施工例をご紹介いたしました。

大阪会場

アトム住まいの
金物ギャラリー大阪



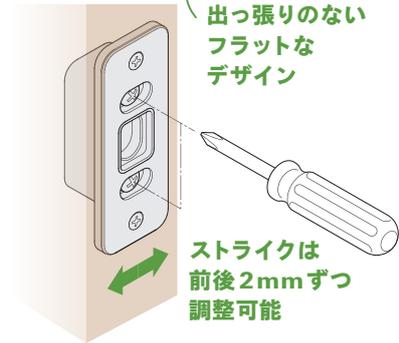


NEW

アウトセット引戸 ロングストローク

人気のHRソフトクローズに
作動距離約80mmのロングストロークタイプが登場。
開閉時の安心感がさらにアップ!

HRソフトクローズを使用したアウトセット上吊引戸システム。上部レールは施工が簡単で、外観をすっきり仕上げることができます。また戸先と戸尻のソフトクローズは、開閉時に枠から約80mm手前から作動するロングストローク。指を挟んだりする心配がなく、安全性を確保できます。



LIVIN' ZONE がリニューアルオープン



アトムCSタワーの「LIVIN' ZONE」がリニューアルオープンしました。ウォークインクローゼットやシューズインクローゼットなど収納をテーマに充実させたほか、大開口間仕切り引戸や移動間仕切りなど、ワンフロアすべてが住宅の間取りをイメージしたシミュレーションゾーンです。さまざまな生活シーンに合わせ、フレキシブルに空間を変化させる間仕切りシステムや収納を展示。「見て」「触れて」「間仕切って」、実際に体験できるスペースとしてご覧いただけます。

リニューアルされた「LIVIN' ZONE」は、新しいライフスタイルに応じた部屋づくりを提案する「情報発信基地」となっています。

動画はこちらから
スマートフォンで
ご覧いただけます



東京会場
アトムCSタワー



ご来場くださいましたお客様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

東京都内最古の寺で、「浅草の観音さま」と呼ばれ親しまれている「浅草寺」。その浅草寺界隈は、江戸時代から庶民の盛り場、娯楽場であり、いまでも国際的な観光スポットとして賑わう。かつて吉原遊郭があったころ、大門の近くには「桜鍋」の店がずらりと軒を並べていた。明治三十八（一九〇五）年に創業した「桜なべ中江」もその一軒。店は大正十三（一九二四）年に建て替えられたが、往時の風情を残す建築として、平成二十二年（二〇一〇）年、国の「登録有形文化財」に指定された。

庶民のファストフード

新緑をまとった柳の枝が風に揺れていた。吉原遊郭の大門跡近くにある「見返り柳」である。遊び帰りの客が、後ろ髪を引かれる思いを抱きつつ、この柳のあたりで遊郭を振り返ったことから名づけられた。「土手通り」を挟んで、その柳の目と鼻の先にある店が、明治時代からつづく老舗「桜なべ中江」である。

創業は明治三十八（一九〇五）年。初代店主の中江権太郎くんたろうは新潟出身で、明治二十（一八八七）年に上京。上野の黒門町の料亭で修業したのち、この地で桜鍋屋の暖簾を掲げた。

文明開化の時代、横浜では「牛鍋」が

大ブームになっていたころだ。牛が売れるなら馬もというわけで、当時の吉原界隈だけで同業の桜鍋専門店が二十軒以上も軒を連ねていたという。

他の店では「牛鍋」と同じように割り下で食べるすき焼きスタイルだったが、中江では「馬には馬の味付けが必要だ」と、割り下に江戸甘味噌を使った特製の味噌ダレを加える工夫をこらした。その味が評判となり、遊郭から朝帰りの客をはじめ、昼食はもちろん、夕方は遊郭へ繰り出す前に「馬力」をつけるスタミナ補給、さらに深夜は夜食用にと一日中賑わったという。桜鍋は馬肉をさつと煮て、手早く食べられる庶民の「ファストフード」であった。



1階の入れ込み式の座敷。改装されて現在は掘りごたつ形式とし、和の雰囲気とテーブル風に利用できる洋の利便性も取り入れている



関東大震災後、大正13(1924)年に建て替えられた店舗。店の前に木橋が掛かり、目の前が川であったことがわかる



店舗は街路に平行して建てられた南北棟の切り妻造りで棧瓦葺き。熨斗瓦を高く積んで屋根を高くし、店構えを立派に見せる演出をしている



文明開化の味を伝える

木造建築

関東大震災で店は焼失

創業時の店舗は、初代の弟が建築に関わった。彼もまた兄と同じように新潟から上京し、神社などを建築する宮大工として働いていたのである。店舗建築は、その弟が一本立ちするタイミングに合わせたようだ。新築となった店は、故郷を離れて東京にやってきた兄弟の「成功物語」のシンボルの存在でもあった。

ところが、思いもよらぬ出来事が中江を襲う。明治四十四（一九一）年の「吉原大火」で店は焼け、さらに追い打ちをかけるように大正十二（一九二三）年の関東大震災で店は倒壊・焼失してしまうのだ。

現在の木造二階建ての店舗は、宮大工の弟によって震災の翌年に再建されたが、災難はこれで終わりではなかった。昭和二十（一九四五）年三月十日のアメリカ軍による東京大空襲である。木造家屋が密集する下町を標的とし、すべてを焼きつくそうとする作戦で、高性能の焼夷弾が次々と投下された。

吉原界限も焦土と化したのが、店の三軒隣に落ちた焼夷弾は、幸運にも不発弾であった。そのおかげで、奇跡的に店と周り数軒の家屋だけが焼け残り、建物は今まで九十四年という風雪に耐えてきた。



2階の座敷は格調ある書院風造り。建材選びも造りも宮大工ならではの匠の技と粋が感じられる。店主は幼いころ、この棚を遊び場に使っていたという

アトムの視点



向かって左に床の間、中央の床柱を挟んで右に違い棚と上下に天袋・地袋が配置された、本勝手の座敷飾り（2階）。床の間の脇を仕切る壁の下部には、採光目的で作られた開口部があります。条件によって「狎ぐり」^{ちんぼら}「洞口」^{ししがきまど}「獅子垣窓」など、実にたくさんの名前がありますが、今回の場合はどれに当たるでしょうか。



同じく2階座敷に飾ってあるポスターは、明治から昭和初期にかけて制作された「菊正宗」の美人画シリーズ。落款に「富麻呂」とあり、明治31(1898)年生まれの日本画家、樋口富麻呂のようです。取材の一環として(?)お店の名物「桜なべ」をいただいている間も何度となく彼女の視線を感じ、これはもはやお店の看板娘のひとりとお見受けしました。

欄間に桜の透かし彫り

明治・大正期の情緒が色濃く残る店内には、随所に匠の技が活かされている。

たとえば、一階の入れ込み式の座敷に鎮座する作り付けの神棚。通し屋根の三社造りで、宮大工の腕の確かさを思わせる重厚な仕上がり。その脇には、桜鍋の店にふさわしく馬頭観音が祀られている。

また二階座敷にある欄間には、透かし彫りによる松竹梅に加え、「桜」の文様が小粋にデザインされ、釘を使わずに添えつけられた松の一枚板の腰板が美的センスを醸し出す。書院風造りの床の間は、床柱などに紫檀や黒檀が使われ、日本家屋の伝統美を伝えている。

店舗は国の「登録有形文化財」に指定

されたが、老朽化に対処するため四半世紀に一度、補修・改装工事を実施。店内の雰囲気を保ち、保存するための最小限度の措置である。

現在、創業時から残っているものはほとんどないが、わずかに玄関にある那智黒の敷石がその名残をとどめる。長年、人に踏まれつづけ磨り減っているのが、店の歴史を物語る証である。

下町情緒を残す木造建築

伝統食としての桜鍋を愛し、この店の佇まいを愛する著名人も数多い。

店内にサインや色紙がある武者小路実篤をはじめ、十一代目・市川團十郎、三代目・三遊亭金馬、團伊玖磨などなど。「芸

術は爆発だ！」の科白^{せりふ}で有名な岡本太郎も常連のひとりだった。その岡本画伯から「パリで食べて美味しかった馬肉のタルタルステーキと同じようなものを作ってほしい」と注文され、三代目店主が考案したメニューがある。馬肉を醬油と胡麻油でユツケ風にアレンジした料理「桜肉のタルタルステーキ」だ。画伯も納得の味で、それを現在の四代目・中江白志^{しろし}さんが、太郎さんのユツケという意味をこめて「タロタロユツケ」と命名。名物メニューのひとつになった。

明治三十八年の創業以来、「桜なべ中江」は、今年で百十三年。初代から四代目まで守りつづけたその味とともに、下町情緒と風情を感じさせる木造建築は、歴史的景観を残す貴重な文化遺産である。

四代目・白志さんは「文明開化の味であり、東京の郷土料理としての桜鍋を守り伝え大切にしていきたい」という。往時を偲びつつ桜鍋に舌鼓を打てば、かつての浅草寺界隈の賑わいや風景がよみがえってくるようである。

INFORMATION

桜なべ中江

- 所在地：東京都台東区日本堤1-9-2
- TEL. 03-3872-5398
- 営業時間：平日 17:00～22:00 (21:30ラストオーダー)
土日祝 11:30～21:00 (20:30ラストオーダー)
- 定休日：月曜日 (月曜が祝日の場合は営業、翌火曜日が休業)
- 交通：東京メトロ日比谷線「三ノ輪」駅より徒歩9分
都電荒川線「三ノ輪橋」駅より徒歩13分
東京メトロ日比谷線、つくばエクスプレス、JR常磐線「南千住」駅より徒歩15分
- ホームページ：<http://www.sakuranabe.com/>



江戸時代後期の画家「谷文晁」(江戸下谷根岸の生まれ)の作品と伝えられる「四季の馬」の絵。右から春夏秋冬



1階の座敷にある通し屋根三社造りの神棚。その右隣には、桜鍋の店にふさわしく馬頭観音が祀られている



2階座敷の欄間には、透かし彫りによる松竹梅の吉祥文様に加えて、洒落心を感じる「桜」がデザインされている



釘を使わずに添えつけられた松の一枚板の腰板。木目模様のダイナミックな躍動感が独特の雰囲気を生み出している



創業以来の名残をとどめる玄関の那智黒の敷石。店の歴史を物語るように、長年人に踏まれつづけ磨り減っている

photo by 吉田周平 文 島仲こすも

独特の青臭さと、皮目のほろ苦さ。
 そして、ほんのりと感じられる甘み。
 甘みを出すならしっかりと煮込んで。
 塩、ニンニク、オリーブオイル、
 唐辛子と一緒に、水を加えて約10分。
 つぶしてパスタにかければ完成です。
 素材の風味と食感を活かすなら、
 1分くらいざらりと茹でて魚介類と。
 もちろん生でも食べられます。
 その際は縦にスライスしましょう。
 葉からは、ケールのような風味。
 もちろん蕾と同じく栄養満点です。
 ペーストにしてカレーに投入しても、
 スムージーにしてもおいしいですよ。
 唯一無二のルックスと多様な味わいが
 魅力的なロマネスコ。
 ぜひ、食卓に取り入れてみて。

不思議なルックスですが
 実はカリフラワーの一種です。
 ロマネスコ。



クリタタカシ | 野菜農家「キレド」代表。サラリーマン時代に出会った「梨のような大根」に感銘を受け、農業の道に。現在は千葉県四街道市にて、年間150種類以上の野菜を栽培している。「野菜の一生をみる」「レストランでしか食べられないような野菜を、食卓にも」を基本理念として活動中。同県千葉市には、とれたて野菜を味わうことのできる「キレドベジタブルアトリエ」も。

キレドベジタブルアトリエ
 千葉県千葉市若葉区小倉台5-13-4-1F
www.kiredo.com





カフェ me,too。お店は月の第1~3週の金曜日のランチタイムだけオープンします。常連さんもたくさんいます。じつはこのお店の主人公は障がいのある人たち。彼らの隠れた魅力や才能を引き出すために、池田町障害福祉サービス事業所「ふれ愛の家」によって開かれました。「障がいのある人もない人も 学校へ行くことができない人も 働くことができない人も お年寄りも赤ちゃんも みんな仲間だよ」がお店のコンセプト。



素直に優しさが出せる場所が、そこにありました。

障がいのある人たちとの距離を近づける場所



しじを担当するのも障がいのある人です。

店内

宇宙食堂

Blues cafe'

ギャラリー Universe

カフェ me,too

【施設:自由空間ナマステ】

清水美和さんは、お客さん自らがフリースペースを自由に創造して使える場所を提供しています。

me,tooはふれ愛の家の副所長・中村武文さんの企画に清水さんも賛同し、この場所で開店することができました。ナマステという



名称は、清水さんがインド好きなどから付けられた名前です。

ナマステはヒンディー語の挨拶、こんにちは

厨房

食べきれないほどのおいしい料理

お手洗い

厨房でも、障がいのある人たちとボランティアの人たちが手際よく働いていました。



カタ



カタ

少しおぼつかない手つきですが、それも愛嬌に見えるのがこのカフェ。笑顔があふれていました。

ふれ愛の家の仲間が働くカフェ「me,too」とは？

カフェme,tooは強制や義務からでなく、「私も、やりたい」という想いで参加する場所であってほしい!!という願いがこめられています。

事実、ふれ愛の家のメンバー以外には完全にボランティアで運営されています。その想いをこめた店の名前です。

● カフェ me,too
TEL: 0585-44-1877 (ふれ愛の家) ランチ要予約

● 自由空間ナマステ
岐阜県揖斐郡池田町八幡 2579-3 清水ビル1F
TEL: 090-8861-3188 (清水)



profile 中村武文 [なかもら たけふみ]

中村武文さんは、現在池田町社会福祉法人の障害福祉サービス事業所「ふれ愛の家」の副所長として活動するなかで、カフェ me,tooの立ち上げを担当し、障がいのある人たちの活動の場を開拓しています。中村さんは介護関連の専門学校を卒業後、介護施設で働いていましたが、自分自身を成長させるために海外へ単身、約2年間の旅に出ました。そこで多くのことを学び、再び障害福祉の世界に戻り、「障がいのある人にしかできない役割がある!」という想いのもと、精力的に活動をしています。 *カフェ me,tooは現在、國枝央知留(クニエダ ミチル)さんが代表者です



エッセイ的な謎絵

1980年12月、
アトムニュース
第1号創刊!

このあたりから表紙がシュールに!
アトムの金物がモチーフになって
いるんですね

当時流行り始めた、最新の
コンピューターグラフィック!

心からありがとうございます



迎えることができました。これもひとえに全国の読者の皆さまのおかげです。

これまでのアトムニュースを振り返って、現編集員の3人が緑茶を片手に座談会! 38年間の歴史と一緒に追いかけてみましょう。当時の表紙や記事も一部掲載していますので、ご興味と根気のある方は、ルーペをお手元に用意してお楽しみください!

1980年創刊!

新井 創刊号から振り返っていくわけですが、一応乾杯などしてみます(笑)?

こすも わーい! 皆さん緑茶でよろしいですか?

松川 本当はビールといきたいところだけど、まだまだ明るい時間なので(笑)。それでは、3人 かんぱーい!

新井 それじゃ、早速本題に。まずは歴代の誌面をスラリと並べてみました。まさに38年の軌跡といった感じですね。

こすも 創刊直後の号を見ると、また今とは違う手作り感にあふれています。素材や、最新の工業デザインに関する内容、製品紹介などなど、専門的な知識も多く掲載されていますね。

松川 デザイン的にも、10年単位くらいで流行の変化が感じられる。

こすも そもそもアトムニュースって、どういったきっかけで創刊されたんですか?

新井 ショールーム「亜吐夢金物館」のPR誌として創刊されました。当時のお取引先さまからの情報だけでは、本当に金物を使う人の好みまではなかなか知る機会が...

こすも なかったわけですね。それで実際に金物を使う人がどんなニーズを持っているか。



祝200号!

この頃の表紙の
スタイリングは、
新井自ら行って
いました。
大変だった...

コラムも連載中、
お野菜の表紙です!

今号から表紙のテーマは
浮世絵です!



記念すべき
100号!

この頃から
持ち運びやすい
コンパクトサイズに

クラフト紙から
白い紙に戻りました

あ、メルヘン。
かわいい

おかげさまで200号!

1980年からスタートしたアトムニュース。今号で200号を



松川 つまり、建築設計者やデザイナー、一般消費者の方々の情報交換の場として、「垂涎宝物館」をPRしたんだね。

新井 ここで少し、創刊号冒頭、当時の社長によるご挨拶文を読んでみましょう。：「より一層各方面の方々との交流の輪を広げるべく、アトムニュースを発刊して、「こだま」の役目を果たさせることにした」とあります。こだまとは金物の作り手と使い手、あるいはアトムニュース編集者と読者の皆さまの相互の声が「こだま」しあうといった意味でしょうか。

こすも お客さまの声に耳を傾けたいという、当時の編集員の熱意が感じられますね。

新井 創刊当時、金物に関するまとまった情報や記録が極めて少なかったなかで、あれこれ本を読みあさって情報収集に奔走していたようです。

松川 ちなみにこすもちゃん、当時のアトムニュースは企画から編集、執筆までごくごく少数の編集員で行っていたさうだよ。しかも、97号（1997年）まではすべてアナログ。原稿用紙の文字を数えて、文字の見本帳から書体を選んで大きさを決めて…。一文字修正するにも数百円かかる、っていう世界だったんじゃないかな。

こすも ひー！ す、すごすぎる…。

新井 ちょっと表紙の変遷を見てみましょうか。創刊号からしばらくは、番号おきに表紙のテーマが決まっていたんですね。金物を



こすも [24]
コピーライター。
192号よりベジタブル
アトリエの執筆を担当



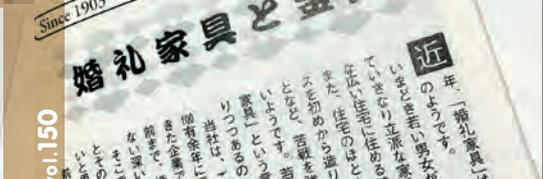
松川 [47]
グラフィックデザイナー。
170号よりアートディレクションを担当



新井 [44]
アトムCSタワー勤務。
アトム社歴22年。
157号より編集に携わる

A4カラーに!
今のアトムニュースに
だいぶ近づいてきました





この号からA4カラーになって写真が大きく扱えるようになった

守備範囲広めですね

入浴法まで指南してくれる

イラストでバーを紹介。いろんなバーへ行きました

いいなー！

吉田さらささん初登場！

この次の号からさらささんの連載開始

婚礼家具って単語、聞かなくなっちゃった

最近は何物初心者の方にもわかりやすいテイストでお届けしています

東京ジャーミイの写真映えは印象深いな

全69回も続いた長寿コーナー

アトムも転換期に差しかかります

新井 そして2000年、社名が変更。高橋金物株式会社から、現在のアトムリビンテックとなりまして。ちなみに「アトム」は設立当初から長年使用している商標。「リビンテック」には、「リビングテック」と「技術に生きるリビブ・イン・テック」といった意味合いが込められています。

ごすも 社名変更直後に株式を公開...。つてことは、2000年はアトムにとって大きな出来事が続いたんですね。そのほかにも変わっていった部分ってあるんですか？

新井 それまであった古いビルを建て替えて、2007年に現在のアトムCSタワーがオープンしました。これを機に、アトムニュースの編集員が世代交代。このときからメンバー内の女性の割合が増えました。

ごすも そこで新井さんが加わったんですね。松川 157号(2007年)からサイズがA4判に戻り、フルカラーに。現在のアトムニュースの体裁になりましたね。僕は170号(2010年)からデザイン担当です。

ごすも 一般の方や女性にとっても、さらに親しみやすいというか、手に取りやすい雰囲気になっていく気がします。

新井 新体制となったからは、以前よりも外へ取材に行く機会が増えたかも。飲食店や歴史的建造物、職人さんなどの取材先へ、当初は都内だけだったのが、関東、全国...と、じわじわと取材範囲を広げていきました。

松川 そういえば157号から、「アトムニュースで紹介したスポットがどんどん増えていくマップ」と題して、巻末に新橋の地図を毎号載せたんだよね。でも思うようにスポットが増えず、さりげなく消えていった... (笑)。

新井 そうそう。地図上に満遍なく...と、うまい具合にはいかなかったんですね(笑)。そして目指すは300号...

新井 昔のアトムニュースを振り返ってみて、あらためてどうでしたか？

ごすも 内容もデザインも、当時の世相やトレンド、それに社員のキャラクターまでもが誌面に反映されていましたね。ただ、創刊号から現在に受け継がれている点は多々あるように感じました。企画全体のエンタメ性とか作り手がまず楽しんでる空気感とか。

松川 変化という点で考えると、デザインはとくに変化がわかりやすかったよね。挿絵はもちろん、フォントや文字の組み方なんかも少しずつ時代は移り変わっていくんだなあ。

新井 昔のアトムニュースには、それぞれ時代の流れや流行に敏感に反応し、タイムリーに誌面で表現している「鮮度感」を感じました。私が編集に携わって10年以上が経ちましたけど、これからもフレッシュな誌面を目指したいですね。

ごすも 次の目標はやはり300号!?

新井 今のペースでいくと、1年に4回発行だから25年後...。こちらは未来の編集員に託しましょうか！ というか、そもそも未来の編集員って人間なのかな？ もしかしてAI(人工知能)、だったりして！

松川 まさに現代版、鉄腕アトム!?

ごすも 未来への夢が膨らみますね！ ところで皆さん、外もだんだん暗くなってきたことだし、そろそろビールを飲みたくはありませんか？

新井 では場所を変えて、200号の乾杯でもしましょうか(笑)。

今後ともアトムニュースをよろしくお願いたします!!

読者の声

いつも仕事に疲れた時の一息になります。知らない世界をいつもありがとうございます。これからも楽しい記事、心待ちにさせていただきます。南部鉄器、男のロマンを感じました!!

〈静岡県 M・H様 男性〉

南部鉄瓶、子どものころ祖母が鉄瓶のお湯は体によいといつも飲んでいました。子どもながらに何かやわらかなお湯と感じていました。

〈愛知県 トラ・トラ・トラ様 男性〉

日本のトイレの進化の記事はうなずいてしまった。海外へ行っとうっかり水を飲むものなら、ひとつたりもなくおなかを壊してしまう日本人。無菌状態が当たり前の生活は世界でも稀有なものだと思います。

〈愛知県 S・N様 女性〉

綿業会館もそうですが、大阪にはこういった風情の建物がたくさんあります。

〈京都府 O・T様 女性〉

ドラマのロケに使われた建物。ロートアイアンが使われている建物。

〈東京都 A・M様 女性〉

建物は美術館を取り上げてほしい。三品さんは阪神ファンなんですか？ 私は掛布ファンでした。

〈神奈川県 F様 男性〉

4/19に東京の展示会に参加させていただきました。運動しない建具の引戸ソフトクローズや間仕切建具など、大変勉強になりました。

〈東京都 K・M様 男性〉

編集後記

弊社のルーツである銚子かざりしよく職と関係の深い、指物職人の益田さん。吉原遊郭の近く、かつては粋客でにぎわった時代背景に思いを馳せるのも楽しい、桜なべ中江さん。ふたつの風情あるコンテンツを含む「江戸・東京」風の200号として、このたびアトムニュースをお届けしました。極めつきはイラストレーターの瀬谷さんによる、浮世絵風イラストの描き下ろしで今号からの表紙を飾っていただき、私たちも心躍らせています。巻末では恐縮ながら、小誌の軌跡を振り返る機会をいただき、雑多な誌面を、目を凝らしてご覧くださった皆さまに感謝申し上げます。また201号から一歩ずつ、皆さまに楽しんでいただける広報誌を目指してまいります。今後ともよろしく願いいたします。

〈アトムニュース編集室一同〉

INFORMATION

アトムリビンテックは
「日経IR・投資フェア2018」に出展します!

8月31日[金] 9月1日[土]

場所 東京ビッグサイト 主催 日本経済新聞社

詳しくは当社IRサイトをご覧ください www.atomlt.com/ir

ご来場をお待ちしております



卸売事業部 星野 優子

アトム製品取り扱い代理店への
卸売の営業事務を担当

我が家には折り紙とぬりえの好きな7歳の女の子と、家でも外でも動き回っている5歳の男の子がいます。現在子育て奮闘中です。平日は小学校と学童、保育園にそれぞれ預けているので、休日にはなるべく子どもたちと一緒に過ごすことを意識しています。

最近では自転車で海浜公園へ遊びに行くことが多いのですが、元気がいっぱいの子どもたちは長時間のサイクリングでヘトヘトの親たちをよそに、浜辺で散々遊び回った帰り道、更に公園で遊ぶのがお決まりのコースです。

また週末は、朝食用によくパンを焼いています。子どもたちにも安心して食べてもらえるように、ポストハーベスト農薬の心配が無い国産小麦粉を使うようにしています。パン作り歴はまだ8年ほど

ですが、調理パンや菓子パンなどレパートリーも増えてきました。家族全員好みが異なり、いつも何パンを作るか迷っています。バターロールだけはみんなに大人気のパンです。長女と一緒にパンやお菓子作りを楽しむこともあり、2人で親子パン教室に参加することもあります。

休日は子どもとの時間を優先していますが、月に一度は子どもたちを夫に預け、パン教室やお菓子教室へ行き、自分の趣味を楽しんでいます。教わった翌日には、忘れないように必ず復習をしています。試行錯誤して上手に焼けた時の達成感はこの上ありません。そして、焼き上がりの香りにつられた子どもたちが、キッチンへ寄ってきて「もうできる?」「食べてもいい?」と聞きにくる姿を見るのが、私の小さな幸せです。

魚の形のパンを
製作中



貝探しに夢中
になる3人



僕の顔の
パンだよ

*小麦の収穫後、輸送時のカビを防止する農薬。

個人情報の取り扱いについて

アンケートや読者プレゼントにご応募いただいた皆さまの個人情報は、読者プレゼントおよび「ATOMNEWS」の発送にのみ使用いたします。ご本人の承諾のない限り、第三者に提供することはありません。また、ご応募の集計結果は個人を識別できない形で管理の上、「ATOMNEWS」の企画・編集・制作の参考にさせていただきます。



住まいの金物、取りそろえました。



www.atomlt.com/catalog/

住まいの飾り職人
ATOM LIVINTECH **アトムリビントック株式会社**

■本社 / 〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL.03-3876-0600 (代表)
 特 販 事 業 部 TEL.03-3876-0603 FAX.03-3876-8833
 卸 売 事 業 部 TEL.03-3876-0602 FAX.03-3876-4435
 ■アトムCSタワー / 〒105-0004 東京都港区新橋4-31-5
 アーバンスタイル事業部 TEL.03-3437-3673 FAX.03-3437-3565
 亜吐夢金物館 TEL.03-3437-3440 FAX.03-3437-3565

■アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所 / 〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18-5
 TEL.06-6821-7281 FAX.06-6821-7282
 ■札幌営業所 / 〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東三丁目28-32 井門札幌東ビル1F
 TEL.011-748-3113 FAX.011-753-3015
 ■前橋営業所 / 〒371-0805 群馬県前橋市南町3-72-7
 TEL.027-223-2651 FAX.027-223-2661
 ■広島営業所 / 〒733-0031 広島県広島市西区観音町16-9 みさおビル1F
 TEL.082-291-4235 FAX.082-291-4880



www.atomlt.com